



# 水だより

No. 3

学校が約2か月ぶりに再開しました。子供たちが久しぶりの学校に来てしたかったこと。それは待ち遠しかった仲間や先生との触れ合いだったように思います。現在は、感染症拡大防止のため、近くで話しこんだり実際に体を触れ合ったりすることは控えています。しかし、子供たちは学校生活の中でいろいろな人と考えや思いを交流しながら、自分や仲間のよさを見付けています。

## 教材に込める仲間の愛情を感じ合う1年生

1年生生活科「わたしのあさがお」の時間、Kさんは、一つの鉢にあさがおの種を5個植え、本葉にまで育ってきたことをうれしそうに話しています。鉢の様子を聞いた担任は「すごいね。だけど、あさがおさんたち窮屈じゃないかな」と投げかけます。Kさんは「そのままでもいい」とぼそそつぶやきました。すると、Fさんが「私なら離して植えたい。だって、何か窮屈そうだもん」と発言しました。

Fさんの話を聞いたKさんはしばらくして「5つのうち真ん中の大きいあさがおは残す。そして、外の小さい2つのあさがおは植え替える。兄の鉢に1本ずつ植える」と考えました。

Kさんは、Fさんの話を聴き、小さい苗を広々とした鉢に移動させ、5つとも平等に大きく育てたいという考えをもったようです。仲間と話をしたことで一つ一つのあさがおがもっと大切に思えるようになったのでしょう。またFさんも自分のあさがおを大切に育て、大きくしたいと考えていたからこそ、先程の発言をしたのでしょう。愛情をもってあさがおを育ててきたKさんやFさんだからこそ、感じ合える場面が生まれたのだと思います。



## 学習の楽しさを確かめ、次の一步を仲間と踏み出そうとする4年生

今年度私は、4年生の書写を担当することとなりました。最初の授業で、昨年度の書写の時間についてどう思っていたのか、子供たちに問いかけました。すると全ての子供たちが「楽しかった」と答えたので今度は何が楽しかったのかを問いかけてみました。

Uさん：「先生に教えてもらった通りにすると上手な字を書けた。そして先生に褒められたことがうれしかった」**信頼する先生に認めてもらえた喜びを感じていたUさん**

Hさん：「練習すると字が上手になっていく自分に気付いてうれしかった」

**自分の可能性に出合う楽しさを感じていたHさん**

Oさん：「普段は鉛筆で字を書くことが多いけれど、筆だと字の太さを変えて書くことができるので楽しい」**教材のもつ楽しさを味わっていたOさん**

子供たちは、同じ場で、同じ時間を過ごしてきたはずですが、見付けていることはそれぞれ違います。子供たちが自分なりの学習の楽しさを見付けていることを知りうれしくなりました。また、子供たちが自分の思いを互いに紹介し合える学級の雰囲気のよさを感じました。このような子供たちと1年間一緒に学習に取り組むことができる喜びを感じると共に、私たちががんばらなくてはならないなと思いました。

釜ヶ淵小学校では、仲間と学ぶことの楽しさを子供たちに感じて欲しいと願っています。私たち教職員も、仲間と学ぶことの大切さとありがたさを子供たちに伝える努力を続け、子供と共に歩んでいきたいと思っています。

高野 力郎